

診療情報を利用した臨床研究について

虎の門病院消化器内科及び虎の門病院分院消化器内科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた記録をまとめるものです。この案内をお読みになり、ご自身やご家族がこの研究の対象者にあたると思われる方の中で、ご質問がある場合、またはこの研究に「ご自身やご家族の診療情報を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の相談窓口までご連絡ください。

【対象となる方】

2011年1月1日 ～ 2019年12月31日の間に、大腸憩室出血のために虎の門病院消化器内科あるいは虎の門病院分院消化器内科に入院し、大腸内視鏡検査を受けた方

【研究課題名】

大腸憩室出血における weekend effect の検討

【研究の目的・背景】

《目的》

大腸憩室出血の週末入院と平日入院で、その後の経過に違いがあるかを明らかにすることです。

《研究に至る背景》

大腸憩室出血は多量の出血のため緊急入院を要する疾患で、その診断・治療においては内視鏡検査が必要となります。しかし、週末に入院した場合には内視鏡検査には準備が必要なため、平日と比較すると検査をすることが難しい場合があります。以前より脳梗塞や心筋梗塞といった病気においては週末に入院した場合はその後の経過が良くないことがわかっています。胃や十二指腸からの出血においても同様で、死亡率や再出血率が高いことが報告されている。しかし、大腸憩室出血に限れば、週末入院の影響 (weekend effect) はわかりません。

そのため、今回大腸憩室出血における weekend effect を評価するために研究を行います。

【研究のために診療情報を解析研究する期間】

2020年8月24日 ～ 2022年12月31日

【単独／共同研究の別】

虎の門病院及び虎の門病院分院共同研究

【個人情報の取り扱い】

お名前、ご住所などの特定の個人を識別する情報につきましては、特定の個人を識別することができないように個人と関わりのない番号等におきかえて研究します。学会や学術雑誌等で公表する際にも、個人が特定できないような形で発表します。

また、本研究に関わる記録・資料は 虎の門病院、早坂淳之介 のもと研究終了後 5 年間保管いたします。保管期間終了後、本研究に関わる記録・資料は個人が特定できない形で廃棄します。

【利用する診療情報】

診療情報：検査データ、診療記録、内視鏡データ、CT データ、薬歴、看護記録

【虎の門病院における研究責任者】

消化器内科 ・ 菊池大輔

【虎の門病院分院における研究責任者】

消化器内科 ・ 菊池大輔

【研究の方法等に関する資料の閲覧について】

本研究の対象者のうち希望される方は、個人情報及び知的財産権の保護等に支障がない範囲内に限られますが、研究の方法の詳細に関する資料を閲覧することができます。

【ご質問がある場合及び診療情報の使用を希望しない場合】

本研究に関する質問、お問い合わせがある場合、またはご自身やご家族の診療情報につき、開示または訂正のご希望がある場合には、下記相談窓口までご連絡ください。

また、ご自身やご家族の診療情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、 2021年3月31日 までの間に下記の相談窓口までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様にご不利益が生じることはありません。

【相談窓口】

虎の門病院 消化器内科 ・ 早坂淳之介

電話 03-3588-1111(代表)

虎の門病院分院 消化器内科 ・ 菊池大輔

電話 044-877-5111(代表)